

第〇学年 学級活動(1)指導案例(細案)

日 時 令和〇年〇月〇日(〇) 〇校時
 対 象 〇年〇組 〇名
 指導者 〇〇 〇〇

1 議題 「(例) かるた大会をしよう」

学級活動(1)の内容を記述する。

学級活動(1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

2 議題について

(1) 児童生徒の実態

児童生徒の学級生活や学級活動における実態などを記述する。

(2) 議題選定の理由

議題が設定された背景や教師の指導観などを記述する。

3 評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。議題ごとに設定するのではなく、内容や時間のまとまりごとに評価できるように設定する。		

4 事前の活動

(1) 計画委員会の活動

日 時	児童生徒の活動	指導上の留意点	〇目指す児童生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
学級会に向けた計画委員会等の活動を示す。 計画委員会で話し合った内容(話し合いを進める際の留意点、予想される意見への対処方法、合意形成に向けた意見の整理の仕方等)についても記述する。そのために計画委員会が作成した活動計画や進行台本を載せることも考えられる。			

計画委員会とは、話し合いに必要な一連の活動計画を立て運営するための組織です。司会、黒板記録、ノート記録等で組織されます。
 一般的には、司会と記録(黒板・ノート)を「司会グループ」、それに提案者と教師を加えて「計画委員会」を組織します。

(2) 学級全員の活動

日 時	児童生徒の活動	指導上の留意点	〇目指す児童生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
学級会までに学級全員が行う準備の計画を記述する。			

計画委員会と学級全員の活動を一つの表にまとめて記載することもあります。

5 本時のねらい（目指す生徒の姿）

中学校は「目指す生徒の姿」と表記します。

6 本時の展開

主な活動内容	指導上の留意点	○目指す児童生徒 【観点】〈評価方法〉
話合いの流れを想定し、指導上の留意点や、話合いを深めるための助言等について記述する。		
<p>（例）「かるた大会をしよう」ア学級や学校における生活上の諸問題の解決 （参照）みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編） 国立教育政策研究所 編 P 6 3</p>		
<p>1 はじめの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認</p> <p>5 決まっていることの確認 6 話合いのめあての確認 7 話合い 話し合うこと① 「かるたに書く内容を何にするか」</p> <p>話し合うこと② 「友達のことをもっと知るための工夫をどうするか」</p> <p>話し合うこと③ 「どんな係が必要か」 8 決まったことの発表</p> <p>9 振り返り</p> <p>10 先生の話</p> <p>11 おわりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてが言えるように、事前に指導する。 ・提案者の思いや願い、学級全員の問題であることを確認する。 ・日時や場所については、あらかじめ教師の方で決めておく。 ・話し合うこと①は「くらべ合う」段階から進められるよう、事前に短冊を背面黒板等に掲示しておき、出されている意見を全員で共通理解できるようにしておく。 ・司会が進行に困ったときは、方向性を示唆する。児童の合意形成を方向付けるような助言はしない。 ・自治的活動の範囲を超えそうな場合は、必要に応じて助言する。 ・自分の意見に固執せず、納得した上で考えを変えるなど、折り合いを付けることも必要であることについて助言する。 ・よかった点や課題について自己評価し、友達のよかった点などについても相互評価できるように助言する。 ・終末の助言では、①合意形成したことへの価値付けや個人や集団への称賛、②今後の課題、③計画委員へのねぎらい、④今後の見通しや実践に向けての意欲付け等について簡潔に述べ、特に前回の話合いと比べての変容について称賛する。 ・時間があれば、提案者に今日の話合いの感想を述べる場を設ける。 	<p>○ 仲が深まるかるた大会になるように、友達の意見を参考にしながら折衷案を考えて発言したり、みんなの共感を得られるような改善案を出したりしている。</p> <p>【思考・判断・表現】 〈観察、学級会ノート〉</p> <p>○ 前回の話合いの経験を生かして、合意形成を図るための話合いの進め方や約束を理解している。</p> <p>【知識・技能】 〈観察〉</p>

7 事後の活動

日時	児童生徒の活動	指導上の留意点	○目指す児童生徒 【観点】〈評価方法〉
事後の児童生徒の活動や教師の支援方法等について示す。 (例) 決めたことの実践→振り返り→次の課題解決へつなげる			

8 板書計画

--